

保育・こども通信～保護者さま・保育者さまへのお役立ち情報～

その避難、本当に全員で動けますか？
～「予定どおり動けない子」の視点で防災訓練を見直す～

【こんなことがありました】——ある園での午後の避難訓練から

5歳のBちゃんは、担任が靴の着脱を介助している間、廊下の隅で約20秒泣き止んだまま動けませんでした。補助に入っていた先輩保育士が駆け寄り、両手をそっと添えて抱きかかえ、外まで連れて出ましたが、点呼の列では担任の服を握りしめたまま離れませんでした。

——保育所保育指針は、訓練時に「誰がどこで止まり、何があれば動けたか」を記録し、次の計画へ反映することを求めています



「動けない理由」を4つの視点で整理する

「なぜ動けなかったのか」は、一つの原因ではありません。感覚・理解・身体・安心——4つの視点で記録し、刺激の減らし方・伝え方・移動方法・付き添う職員を毎回決めていきます。

【感覚】警報音、防災頭巾、暗さや煙を怖がる

【理解】急な指示や経路変更が分からず、見通しを持ってない

【身体】階段、長距離移動、靴の着脱、避難車への乗降が難しい

【安心】担当職員が見えない、人混みや周囲の緊張で不安が高まる



条件を変えると、計画の弱点が見えてくる

経路・人員・連絡・時間——訓練の条件は毎回少しずつ変わります。月ごとに1つだけ条件を変えながら、「どこで止まるか」「何が困るのか」を確かめます。前月の計画がそのまま通用する前提は捨てましょう。

【時間・活動】午睡中、食事中、トイレ中、園庭遊び中

【経路】通常の出入口が使えない、階段を使う、第二避難場所へ移動する

【人員】担当者が欠勤、応援職員が入る、少ない人数で対応する

【連絡】停電で放送が使えない、電話がつながりにくい、雨天や寒さが重なる



個別の支援と園全体の動きを確認する

気になる子一人ひとりへの支援を考えると、園全体の動き方の改善に直結します。チェックリストと振り返りで止まった場面を見直しましょう。

- ☒ 警報音で固まる、逃げる、耳を塞ぐ子はいませんか？
- ☒ 階段や別経路を安全に移動できますか？
- ☒ 支援する職員と、不在時の代替者は決まっていますか？
- ☒ 写真・絵・短い言葉で避難行動を伝えられますか？



【5分ミーティング】気になる子と場面を一つ選び「困るサイン」「有効な声かけ・道具」「担当者」の記録を！

◆「止まる場面」を、支援方法・担当・環境の改善に！◆

止まった場所/支援が必要だった子/使えなかった物品/役割の重なり——4つの記録を入口に、毎月の訓練に1つずつ反映し、小さな改善を積み重ねましょう。